

『2025年 病院年報』 発刊にあたって

初刊から27冊目となる2025年の年報が完成しました。今年からは印刷版を減らしてネット版を併用する年報です。

2025年は西宮渡辺病院が60周年を、西宮渡辺心臓脳・血管センターが20周年を迎える節目の年である一方で、何とか黒字維持をと考え続けた厳しい1年でした。

世界はトランプに振り回され、我々は上がらない医療費に振り回された一年だったのでしょうか。医療経済窮乏への理解は少しずつ患者さんにも伝わり始めたとはいえ、急速に進む少子化や物価の高騰、日々感じる国力の低下の中では無力感ばかりが募ります。少子化の進む中で人手不足も深刻です。

医療経営に明るい未来は見えませんが、嘆いてばかりではあるべき未来も遠のくばかりです。明確なビジョンの元、それを可能とする根拠を示さなくてはスタッフの共感と協力も生まれません。夢と希望、使命感を失わないスタッフの努力で今年も何とか前進する事が出来ました。

西宮渡辺病院の改修工事は最終章、年末にはHCUの増床が完成しました。次年度2026年には手術室の増室とロボット支援最新鋭のダビンチ5を購入する予定です。

一昨年開設した眼科や耳鼻咽喉科、口腔外科も手術を開始しており2026年年度は泌尿器科や婦人科も手術を開始する予定です。61年目を迎える西宮渡辺病院の新しい出発です。

昨年ICUの増床を行った西宮渡辺心臓脳・血管センターは2026年早々に8床の増床とSCUの工事が完成します。重症例の増加、心臓外科手術やアブレーション件数の増加、様々な検査や治療が増加する中、今年は脳神経外科外科においても症例数の増加と共に念願であった早期退院や病床回転率の改善が達成出来た一年でした。次年度は脳外科用となるシーメンス社の最新アンギオ装置への入れ替えも予定しています。前浜町の脳卒中中心臓リハビリテーション病院も次年度には病院名を西宮渡辺夙川南病院とし、回復期リハと地域包括ケア病棟110床の包括期病院となる予定です。

2024年4月に開講した『特定行為研修センター・特定行為ナース研修センター』は年々入学希望者が増加しています。

急性期病院を襲う逆風はより激しさを増し今後の不安は増すばかりです。重装備の高度急性期医療を維持することの困難さを感じない日はありません。中小病院は急性期医療から撤退せよと言わんばかりの逆風です。この逆風は地域医療にとっての追い風になることは無く地域医療を巻き込む逆風になり地域医療の混乱と崩壊に繋がりがかねない逆風です。

我々の法人の誇る循環器内科Door to Balloon 90分以内の達成率も、心臓リハビリの早期開始率も、整形外科の大腿骨近位部骨折の48時間以内の手術実施率や術後の早期リハビリ実施率も、我々が積み上げて来たチーム医療の上に成立している事と思います。数年続いたコロナ禍も阪神淡路大震災の時も、いつも最前線で地域医療を守ってきた私達です。急性期医療に軸足を置く私どもは変化を恐れず前進あるのみの宿命を背負っています。60年の歴史を糧に更なる飛躍を誓った一年でした。

これからも末長く皆様の暖かいご支援とご協力をお願いしております。どうぞ宜しくお願い致します。

2026年1月末日

社会医療法人 渡邊高記念会 理事長 佐々木 恭子